

心身に刻まれた傷跡 48年たった今

在日韓国人元慰安婦・宋さん

あえて実名！

「平和」「謝罪」への願い込め



宋さんの左腕には慰安婦時代の入墨が残る

訴状などによると、宋さんは一九三二年、韓国忠清南道生まれ。十六歳の時、朝鮮人女性から「戦地に行つて国のために働けば金がある」と誘われ、仕事内容を明かされないまま中国・武昌の慰安所に連れて行かれた。その後、岳州などを転々とし、一日四十、五十人の兵隊を相手にさせられる毎日が続いたという。

左腕には、慰安婦の先輩

から彫り付けられた「金子」という名の入れ墨がいまなお鮮やかに残る。「みつともないから針でつづいて何度も消そうとしたけれど、消えないよ」。殴られ続け、たために右耳は聞こえない。背中には「心中」を強要した日本兵が日本刀で切りつけたという縦十数センチ、幅三、四センチのケロイド状の傷跡も。

「おっかないよ戦争つて、弾が飛んでくるな軍人」と「慰安をしたことある。宋さんの存在は、慰安婦問題を追うルポライターの川田文子さんや、「従軍慰安婦問題を考える会」など市民グループが昨年一月、東京に設置した「慰安婦110番」に寄せられた情報で明らかになった。「従軍

慰安婦は「国際慣習法の「人道に対する罪」」NEWS

「あれと聞いて、お母の、私たちは、その過去をまったく知らない。「二度と戦争を起さしてほしくない。して、国に謝つてほしい」。あえて実名を踏み切った宋さんの、ある。